

第3次福山市上下水道事業経営審議会（第2回）議事録

- 1 日 時 2021年（令和3年）6月30日（水）
9時30分から12時まで
- 2 場 所 中津原浄水場 水質管理センター2階会議室
- 3 出席委員 10人（委員総数 10人）
小川 智弘
小田 直子
客本 牧子
日下 真吾
佐藤 彰三
武井 晶代
堤 行彦
角田 千鶴
寺岡 浩貴
橋本 哲之
(※名前は五十音順)
- 4 傍 聴 人 1人
- 5 次 第
(1) 開会
(2) 報告
①市民意識調査及び事業所アンケート調査について
(3) 議事
①福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の見直し（案）について
②投資・財政計画（財政見通し）の作成の考え方について
(4) 閉会
- 6 配布資料
 - ・ 第3次福山市上下水道事業経営審議会（第2回）次第
 - ・ 福山市上下水道事業経営審議会委員及び上下水道局職員出席者名簿
 - ・ 配席図
 - ・ 市民意識調査及び事業所アンケート調査について
 - ・ 「市民意識調査及び事業所アンケート調査」報告書の一部抜粋
 - ・ 福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）の見直し（案）について
 - ・ 後期実施計画での取組事例について
 - ・ 投資・財政計画（財政見通し）作成の考え方について

7 議事録

(1) 市民意識調査及び事業所アンケート調査について

上下水道総務課長が、市民意識調査及び事業所アンケート調査について調査結果など資料を基に報告した。その後、次の内容の質疑が行われた。

委員 今の報告の中にはなかったんですが、新型コロナウイルス感染症に関するということの中で、支払いの猶予や分割納付などの対応や検討ということで、そうした制度を知らない人がたくさんおられたということですが、実際に新型コロナウイルス感染症で困られて分割納付であったり、猶予であったり、そういう実績、ケースがたくさんあったんですか？

事務局 今、委員からお尋ねのありました新型コロナ感染症による影響ということで納付相談の状況についてであります。先月末迄の状況でお答えさせていただきますと、この1年余りの間で166件の相談が寄せられました。内容と致しましては、収入減ということで一時的に支払いが困難であるという理由が一番多く、特に昨年4月から5月にかけての緊急事態宣言下、この時の相談件数が一番多かったということで、最近では月に10件程度ということで少し落ち着きを見せている。

委員 コロナの影響で生活に困っている方がたくさんおられて、社会福祉協議会がやっている生活福祉基金の特例貸付は、去年の3月から4,900人の方に対して14億円貸付を行っている。皆さん大変困られているという部分がある。毎月10件程度の困られている方が、相談に来られるのは良いんでしょうけど、相談になかなか来られずに、そういうことはないんでしょうけど、支払いができずに水道が止められるというようなことがあっても、ちょっと問題があると思う。こういう情報は1つのSOSですから、水道だけで受け持つのではなくて、市内の福祉部門であるとか、社会福祉協議会であるとかそういったようなところと連携を図っていくということも大切なことではないかと思っている。

今まで債権管理であるとか滞納整理であるとかいう部分での市の中での連携というのはあったかと思うが、なかなか声をあげられない方に対する連携、そういった共有という部分も必要だと思う。

事務局 当然水道については、料金を滞納すると停水執行という措置をとらせていただくが、その場合には、止める前に必ず相手方と折衝をして、悪質でない限りは支払猶予であるとか分割納付であるとかという措置をしている。それでも生活が苦しいという場合は、福祉部門と連携をとるようにはしている。一概に滞納があったから停水執行をするということは控えているので、その点は十分に気を付けて今後もやっていきたいと思う。

事務局 ほかに何かご意見ございますか。

委員 広報があまり行き渡ってなくてなかなか知られていないという話を紹介いただいたと思うが、今までどういう風な広報をされてきて、今後はどういう風に改善していくのか教えてください。

事務局 まず通常の広報広聴の中にあっては、上下水道の事業を広く周知すると

いう中で、まず福山のイベントのバラ祭りであるとか、そういった市民が参画される行事に、上下水道局のブースを使う中で水道水の安全性の周知であるとかそういったことに今まで取り組んでいる。あわせて、小学校4年生がちょうど水道を授業で学ぶ年齢にあたるということで、上下水道局としてはその授業の一環として訪問授業という形で取り組ませていただいているところですが、ここ1、2年いわゆるコロナの時期にあたって学校の授業をやめなければいけないという事態になっているという状況が続いている。1つはそういう部分に対して、先ほどあったデジタル化の推進というものの一環でオンラインで授業ができないか、子どもたちが特に楽しみにしているのが、実験とかを生で見て感動するという部分の今まで、やって良かった、見てよかった、楽しかったというのはそこにあつたので、オンラインでは十分に伝わりきらないという課題も残しつつ、じゃあ何もせずにそのままほかに回すということではなく、できることをやっていきたい。

今日指しているのは、1個でも2個でもそういう授業が成立するような形をつくっていききたいというところ。小学校以外の高齢者とかそれ以外の年齢層にどう広報広聴を広めていくかということはあるが、1つ上下水道局が行っていたのは、出前講座です。地域から要請があつて、上下水道の仕組みについて伝える、最近の主だったところと言えば、防災に関してということと結び付けた内容でということを中心に出前講座をやっているという状況もある。これもコロナの影響もあつたというところで、なかなか出てこないというところが1つの課題かなというところもある。

あと広く広報誌であるとか、ホームページであるとか上下水道に関して時期によって、冬場は凍結時期であるとか、夏場の災害期であるとか、いろんな状況で災害に絡んだ対応を求められる時期もありますので、考えていかなければいけないのかなというところもあつた。局全体のすべての所管のところでそれぞれが業務の特徴をつかんだ広報広聴の戦略を行っていますので、管路の工事であれば、工事現場の見学であるとか、色んな上下水道を知っていただくための仕組み、それを周知するためのということをいろいろ考えているんですが、できていない部分を分析して、結果を踏まえた中で求められている部分にどれだけ応えていくか十分検証しながら、広報広聴に取り組んでいきたい。新しいこういうのを載せてというのが言えるわけではないのですが、1つは事業に対してのという部分は進めていきたいという思いはもっている。

委員 福山市もなかなか市民に情報が届かないということで、何年か前に情報発信課を新しくつくったと思うのですが、情報発信するのってすごく難しい。そこに専門の人を置かないとやっぱりなかなか、私も事業をやっているんですが、お客様、必要な人に必要な情報を届けるのはすごく難しいと思っているので、今までやってきたのはコロナでできないところは仕方ないと思うんですけど、そこに特化した人とかそういう部門ではないですけ

ど、本気で届けようとしないとなかなか届かないと思うので、これから期待させていただきたいと思う。

事務局
委員

新たな取組の参考にさせていただきます。

先ほどの小学校4年生の訪問授業と言われたんですが、この春から小学校（中学校も含めて）にタブレットが配布されまして、今職場で小学校4年生と一緒に水道のプリント学習をしたところなんですけど、水がどういう風に手元にくるのかというプリントだったんですが、今回タブレットを活用して、それから授業はオンラインでもできますけど、1時間の授業の中で水道の動画とかあると、子どもたちはよりイメージしやすいのでは。そういったものを、情報発信と言われましたけど教育委員会と連携しながらそういった方向で考えておられるなら、具体的な案をお持ちでしたら少し教えていただけたらと思う。

事務局

ありがとうございます。まだ授業の形態についての具体的なビジョンまでは仕上がっているということではないですけど、学校の中にあるサポート、1人1台あるという流れの中で、今その環境と例えば上下水道局が持っている機器とうまく繋がったりするのかということも検証しなければいけない。まずは繋げられる環境の部分で、事業の動画が映せなくてもオンラインで例えば質問のやりとりができるような事業形態がもてるようなねらいをもちながら、今年はやれる範囲で一步でも二歩でも取り組みたいと思っていますが、今おっしゃられたように動画を配信できるようなところまで仕上がれば、そういった部分を取り組めればという思いはある。

事務局

先ほどから情報発信のことで言われて、我々も時代にあったSNSによる発信を、会長もいらっしゃってますが、昨年も福山市立大学の皆さんの卒論から、広報広聴のやりかた、若い世代に発信するSNSは重要なアイテムというかスキルじゃないかという意見をいただいているので、実際に研究をしているところ。そういったところを取り入れていきたいと思っている。

委員

デジタル化はもちろん進めていただきたいと思うのですが、そこを外れた高齢者であるとかデジタルが使いにくい方たちのフォローというのは必要だと思うし、意見の中にも学ぶことをしないといけないという意見があったと思う。子どもが学ぶのはもちろんですけど、実際に水を扱っている主婦層であるとか、そういった方への教育というのは非常に大切だと思っている。知らない方は私を含めいっぱいいると思うので、そういうところにどうやって届けるかを画策していただけたらうれしい。

事務局

今おっしゃっていただいた主婦層の方々に対してという、そこへの広報の媒体のツールがどういうものが効果的なのかといったところも考えながらやらせていただきたいと思う。

委員

参考までにお尋ねしたいんですが、納付相談が166件ということなんですけど、コロナ禍で非常に影響を受けているのが飲食業であるとかホテルとかバス・タクシーの関係なんですけど、そういった事業者の方の相談が166件の中に入っているのかどうなのか。

それから市のホームページのコロナの支援策の中に、事業者へのいろんな支援メニューが載っているんですが、その中に納付の猶予であるとか分割納付について盛り込まれているのか、ちょっと私は確認していないんですけど、そのあたりを教えていただきたい。

事務局 新型コロナウイルス感染症の影響ということで、166件の内訳ということでございます。私どもで把握しているのは166件の内、業務・営業用の事業者が21件、それ以外の145件が一般の家庭からのご相談であります。それから市の広報での新型コロナウイルスの影響に関する広報ですけれど、我々としては先ほど申し上げました、支払いが困難な方に対しては支払いの猶予、分割納付ということです。これについてはこの広報の中で上下水道局が対応可能なことを掲載させていただいているところです。支払いの関係で税金であるとか料金を含めてのご案内の中に水道料金それから下水道使用料で支払いが困難な方への案内を広報はさせていただいている。

委員 ありがとうございます。そういった業種は大量に水を使う業種なので意外と少ないなと今お聞きして思ったんですが、例えば固定資産税の減免、猶予ですかね、あの制度は活用されている事業所は非常に多い、そういったことも含めて改めて私どもの方でも、こういったことがあると、そういった業界の方にお知らせしていきたいなと思ってますのでよろしくお願いします。

(2) 福山市上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)の見直し(案)について

事務局から福山市上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)の見直し(案)について、資料を基に説明した。

その後、次の内容の質疑が行われた。

委員 福山市の上位計画との整合性というところで、「みらい創造ビジョン」ができたからそれにあわせて中長期ビジョンも少し直させてくれということですけど、「みらい創造ビジョン」というもの自体がよくわからないというところで、「みらい創造ビジョン」の目指すべき方向性はどんなものなのか、それが水道事業とどう関わってくるのかという風に思っておられるかを少し教えていただければ。

事務局 「みらい創造ビジョン」がどういったものなのかといったご質問でございます。第五次総合計画の第一期基本計画の計画期間が終わったということで、新たな計画を策定する必要があるということで、1年前倒ししたんですけれど2021年度から2025年度ということで、本年3月に策定したところです。新型コロナウイルス感染拡大で社会環境が大きく変化したというところで、ポストコロナにおける「新たな日常」これは新たに今回の計画の中で打ち出しているところ。

あと流行りということではないですが、デジタル技術の進歩というところ

ろの記載もございます。市民ニーズというところですが、市民意識調査における市民の望む福山市の姿というところで、年代別に整理をして、福山市に対して何を望むのかといった整理がある。市の方も市民ニーズということで市民意識調査を実施している。あとこれが2025年度に福山市が目指す姿というところで、新たな分散型社会の下で市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市というところで掲げられている。

我々と致しましては、「デジタル化の推進」であるとか「危機管理」のところ、そういったところを強く「福山みらい創造ビジョン」の中に書き込まれていますので、上下水道事業はライフラインでございますからそういった危機管理対策の関係、それからデジタル化の推進というところで、局がこれからやるべきことと市の方が全体としてやるべきこと、ここは整合がとれると考えておりますので、その辺りもしっかりビジョンの中に書き込む、事業として実際やっていくものも整理するとして考えている。よろしくをお願いします。

会 長 ありがとうございます。「みらい創造ビジョン」の中身とビジョンとして考えてきたものとそんなに大きく差がないかなと思う。もう少し違う視点があったら取り入れるかどうか考えないといけないということがあるのではないかとのご意見だと思えますが。特にそういう視点は考えてないですか。こういうのを参考にしますよと最初にちゃんとあげていくわけですけど。

事務局 危機管理のところなんかこの中にも入っていますし、もちろん上位計画で整理してあるところをしっかりと上下水道事業として取り入れるところの整合を取った中で、我々もビジョンの中に書き込んでいきたいという風に考えている。

会 長 特にこれまで考えてなかったけど、落とし込まないといけないというものは他にはないですか。

事務局 「デジタル化の推進」というのはこれまでなかった言葉ですので、それは上位計画にある以上は、我々もビジョンの中に言葉として入れていきたいという風に考えている。

会 長 そのような視点でもう1回整理し直そうかということですね。ほかに何か、次回までにまとめられる骨子ですので、ご意見をいただいたら反映できるところは反映していただけたと思います。

委 員 これから直されるということなので、今子どもたちとか経営者とかみんな気になっているのが「SDGs」への取組ということをきっかけに、水道について学んだりとか大切さを考えるという、先ほども小学生への訪問授業もあったと思うんですが、そういったキーワードっていうのは、今みんなが意識して取り組んでいかなければいけないことで、ネットで調べてみたら、大阪とか東京都水道局とか、環境5か年計画に「SDGs」を入れてどういう風に取り組むかっていうのを中期ビジョンに入れたりして取り組まれているので、今回の見直しの中で整理しても良いかと思う。

事務局 ありがとうございます。ビジョンそのものはどう見直ししていったら、後

期実施計画はどう策定していくかという時期なので、委員がおっしゃられた「SDGs」の視点は当然必要なことだと思う。こういった形で見せることができるか、これからしっかり議論させていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

会 長 「SDGs」の視点がどこにつながっているのかというのが少し入ってもいいのかなというのはご意見のとおりだと思う。またご検討いただいて、入れ方と中身についてご検討をお願いします。

委 員 今の意見と同じで、「みらい創造ビジョン」で市の方も「SDGs」のマークを意識していますよということで取り入れていますので、やっぱり意識しないといけないのかなと。上場企業は皆さん中長期計画をつくる時に必ず「SDGs」の視点をいれられていますよ。これからの計画づくりの中に「SDGs」の言葉が欠かせないのかなと思うので、先ほどの意見に賛成です。

会 長 ありがとうございます。ほかに何か。

委 員 資料の6ページ、経営戦略に関する国の動向ということで、これは総務省から出ているのはどちらも2019年の3月に出ているように記載があるのもう1点、本市においても前回の答申を見送らざるをえなかったということがあると思う。コロナに関連して。この総務省の国の動向、改定とかガイドラインとか出た後に、コロナの本格的な影響が出てくると思うのですが、これを踏まえて今回見直しというのが、これに基づいてする必要があるのかどうか、もっと言えば今の時期にこの計画の見直し、中間年だったら見直ししないといけないというのもわかるんですが、どうなのかなと。ちょっとどのあたりまで検討されているのか確認しておきたい。

事務局 投資・財政計画の中でそのあたり少しふれさせていただこうと思っていました。少しそこをご覧になっていただきたいと思います。(資料8ページ)これが、投資・財政計画の策定・改定における主な留意点ということで、左側は総務省が「経営戦略策定・改定ガイドライン」ということで示しているもの。それに対して右側是我々が今考えているものです。

まず1点目でございますが、いわゆる「投資試算」「財源試算」これについては、表に出す、要は公表する期間に限らず長期間、原則としては30年から50年を超えるレベルで推計をなさいたいということです。その推計結果及びそれに基づく長期目標も設定しなさいということが書かれている。それに対して本市の考え方が右側に書いてあるんですが、このあと少しふれさせていただきますが、企業債残高とか資金残高そういったものを他団体との比較によって我々はどういった位置にいるのか、その辺をしっかりと見定める必要があるということで、それについても検討していきたい。

2点目、左側に戻っていただきまして、期間内については、支出と収入が均衡しないといけない。つまりこれは、黒字をちゃんと確保しないといけないですよということです。右側ですけども、計画期間、当然後期実施計画これからの5年間分を作るわけですが、その間は純利益を確保して参

りたいと考えている。当然これまでも前期の5年間については、この純利益は確保できているところである。

それから3点目ですが、各種いろんな事業、整備計画でございますが、こういったアセットマネジメントであるとかストックマネジメント、こういった計画としっかりと整合をとった経営戦略を作っていく必要があるということですが、先ほど少しふれさせていただきましたが、例えばこのアセットマネジメントについてもこの間に新たな施設が増えているわけですから、今回これに合わせて見直しをする。見直した総事業費に対して財政見直しを作っていくということです。

最後4点目ですが、毎年度の進捗管理と一定期間3年から5年の成果を検証・評価しなさいということで、より質の高い経営戦略にしなさいということ国から求められているということで、ビジョンそのものは10年間の計画期間があります。じゃなぜ5年間で見直しをするのかいうところです。やはり、中身も大分変わってきていると我々としては感じている。もちろん上位計画が変わったこともあります。大きくは社会環境が変わってきたところ、それから現行の投資・財政計画に対して少しい離が出ている、これからご説明しますが、そういったところもあるので、それを踏まえた見直しと後期実施計画、これを作っていく、そういう趣旨です。よろしくお願いします。

委員 ですから今回コロナのことがあったとしても、そんなに大きく前提が変わらないという考え方をされているということでよろしいですか。

事務局 財政見直しに対して言いますと、昨年度それから今年度については、やはり収入の見込とかかなり大きくぶれております。この2か年はそういった影響があるということ認識した上で、それを踏まえた長期の目標を立てていきたいということがある。それからコロナによって新たに考えないといけない施策、非対面式ということであればデジタル化の推進であるとか、恐らくコロナがなければここまで進展していなかったという思いもありますので、それはコロナを受けたことによって新たに組み込んでいく必要があるということ認識した上で、組み込んでいきたいと考えている。

会長 投資・財政計画のことを数字として大きく見直ししてみようというところが、ビジョン見直しの大きな骨子であり、それ以外の部分は、これまでの作ったビジョンのベースを基に進めていくということであるのかなと思う。他に何か。

委員 資料の13ページ、相互支援の取組、他都市との災害時の支援体制などということ挙げられている。実は電力業界で言いますと、今電力自由化ということで、中国地方に関西電力とかが進出してきてお客様を取られているわけなんですけど、実は災害が起こった時には、協力体制で阿蘇や熊本地震があったときには中国電力の電源車を持って行ったりとかですね、北海道の地震があった時にも、北海道に電源車を運んだりだとかいった取組をしているわけですが、災害時には助けに行くということで電力会社間で取組を決めている。その中で問題が起こったのがですね、部材・材料の

違いで、電源車を持って行っても電線につながらないとか、工具材料の違いでいろんな問題が起きました。今取り組んでおりますのが、部材・材料について、本来は電力会社間で違うんですけどそれを合わせていく、という取組をしています。福山市さんにおいては、お隣の尾道市さんとか、2つ隣の三原市さんとかとの協力体制があると思うんですけど、もう少しつつこんだところで材料を合わすとか、復旧する時にですね、こういった手順でやるとかいうのを深掘りして取り組んで頂ければと。よろしくお願ひします。

事務局 相互支援の取組というところで、他都市との災害時の支援体制、上下水道で分けても、水道、下水の関係で特に水道で災害があった場合に、1つは日本水道協会という全国組織が形成されているところの支援体制の流れに乗って近隣もしくは中四国、場合によっては全国的なネットというところで応援体制をやって、いち早く水道供給体制を確立する。もちろん本市においても災害が起きた時に、最低1週間の水道の確保というような体制を組んでおりますけど、そこを超えての災害等の発生があった場合の支援体制、当然それは下水の分野においてもそうです。身近では備後圏域の6市2町の相互応援体制がありますし、局として委託をしている業者との給水車の支援等々、相互支援体制を巡らせながら、現時点でも上下水道の危機管理体制を確立しておりますし、実際の災害支援でも機能的に対応できるようにしていきたいという風に考えている。

事務局 災害時において、水道管へ消火栓というのがついてはいるんですが、かつては福山市独自の消火栓の形式になっていて、災害時に他市町の消防が来られて消火活動をしようとした時に使えないという状況になっておりました。そういったところを改善を行いまして、全国的にスタンダードな消火栓というものに今現在はすべて替えております。水道につきましては、日本水道協会という団体があります。下水道については下水道協会というところがありますので、先ほど委員からご指摘がありましたように、災害が起きた時にせっかく応援に来ていただいた時、また、こちらが応援に行くというような状況になった時に、持って行ったものが使えないということになると、ちょっと具合が悪いと思いますので、そういった視点も含めた上で、先ほど上下水道総務課長も申しましたけど、そういった視点も取り入れて見直しをしっかりとしていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

会 長 ありがとうございます。資機材の部分ですよね。共有ができたり、持って行ったものが使えないといったことがないような形をとる、これは非常に大事なことです。これは水道も同じだと思いますし、水道の中にも今ご説明があったように地域によっては全く仕様の異なるものを使っていて対応できないといったようなことがあると聞いていますので、その辺を踏まえて復旧できる体制が取りやすい内容にしていくことが必要なのかなと思いますので、またその内容、今みたいな形で取り込んで中に入れていただくというのにも必要かなと思う。

少し私の方から、先ほどからずっと出ている広報広聴のところの確認とアンケート結果というところなんですけど、説明いただいた新たな取組、結構やっただいていてるんですけど、あまりその事自体を知らないということが問題なのかなと。皆さん市民通報アプリ「バ撮ローズ」ってご存じでしたでしょうか、私も知らなかったんですけど、せっかく「チャットボット」もそうですけど、若い方は対応しやすいような形で取り組んでいたと、ただその事自体がなかなか皆さんに伝わっていないというところがあるので、こういう取組を入れていくっていうのが1つとその取組を皆さんに周知していくっていう広報のやり方が少し大事なかなと思いました。その辺、今後のビジョンの中へ入れられるようであれば入れていただく。

それからあと出ていたんですけど、広報広聴のあり方のベースとして、年代別の取組っていうのが、高齢の方と主婦の方だったり、あと小中高の教育だったり、年代別の取組のあり方っていうのが大きく異なるんじゃないでしょうか。その辺を分けて考えた取組が必要だと思います。先ほどご質問のあったことの内容かと思いますが、せっかくいろいろ取り組んでおられることが皆さんに伝わるような形で少し考えていただくと良いかなと思う。

ほかになれば、1つ目の議題、ご説明いただいた内容をベースにご意見いただいた内容を少し踏まえて次回にビジョンの原案をお示しするというごことをお願いしたい。

(3) 後期実施計画での取組事例について

事務局から後期実施計画での取組事例について、資料を基に説明した。
その後、次の内容の質疑が行われた。

会 長 今取り組んでおられること、これから取り組んでいこうと考えておられること、事例としてご説明いただいたんですけど、この点で何かあればご質問いただければ。

なければ私の方で1点だけ。この貯水タンクは飲料水のみ使用ということですか？

事務局 はい。その様に考えています。

会 長 生活用水というのはどういう考え方をされますか。

事務局 生活用水については、現在福山市内で配水池、緊急遮断弁がついた配水池がありますので、そこからの応急給水を行う。災害時の拠点になるところについては、優先的に管の耐震化等進めているので、そういったところには応急給水栓とかそういったものも付けられるように考えております。また、下水道の方ですけど、緑町公園とか竹ヶ端運動公園とかにマンホールトイレがある。そこに水を流さないといけないので、マンホールトイレ等については、井戸を近くに掘りましてその水をトイレに流すということを考えているので、生活用水については、そういったことで対応していこうかなと考えている。

会 長 広域避難場所に設置するマンホールトイレなどで、下水の方は対応可能となってくるんですが、生活避難所の場合には数がたくさんあって、そこでは対応がしきれていないということで、汚水や排水などの生活用排水を少し考えておく必要があるのかなという風にも思う。ただ量が多いのでその避難所で、避難されている方どれくらいの期間滞在するかとも関わってくると思うので、その辺のことも含めて、飲料水はよくわかるんですけど、生活用水、下水の排水に関わって、何か視点があれば出していただいた方が良いと思う。

【休憩】 11：07～11：15

(4) 投資・財政計画（財政見通し）の作成の考え方について

事務局から投資・財政計画（財政見通し）の作成の考え方について、資料を基に説明した。

その後、次の内容の質疑が行われた。

会 長 投資・財政計画について、これまでの課題を踏まえてどういう風にシミュレーションしていくか。審議会としては、より正確なデータを出して頂いてそれを基に議論させていただいて、答申に結び付けていくという風になりますので、その課題と今後の対応の仕方について、考え方をご説明いただいたんですが、何かお気づきの点があれば、ご指摘ご質問いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

委 員 ちょっと教えてもらいたいんですが、この社人研というそもそもが、この社人研の人口推移がすごく間違っていたというか、誤差がすごくあったのでこれだけ数字が変わってきたと思うんですけど、また次の見通しでも社人研の人口の予想を使われていると思うんですけど、だから今まですごく違ったから信用ならんというか、なぜまたこの社人研を信用するのか。ほかの人口データで、もうちょっと今までと近かった推移をしているところがないのか。社人研にこだわる理由は。

事務局 前回かなり差が出たのに今回なぜ使うのかという質問だと思う。（補足資料で説明）今表に出しているのが、前回我々が5年前に作った時の2013年の社人研。もう一方が、2018年の社人研データです。やはり人口をどう見るかというところ大きな考え方としてあるんですが、これまでの傾向を踏まえて、上下水道局独自で作ることはできなくはないと思うんですが、それにも特に根拠がないと我々考えています。また全国的に見るとこの社人研のデータが使われるというのが一般的になっていますので、精度という意味では、今回、社人研データも見直しがかかっていますので、そのデータと現在の動きがほぼニアリーじゃないかなと我々は思っている。であれば前は少し差が出ましたが、今回のものについては、ある程度精度があるんじゃないかなということで、今回改めて同じところのデ

一タの減少率を使うんですけど、今回も使いたいということです。

会 長 よろしいですか。

委 員 はい。

会 長 社人研のデータが一番公的なデータとして全国的にも使われている現状ではある。

委 員 2015年の最初のビジョンの時から関わらせていただいて、その当時には、2、3年経つと収支がものすごく悪化をしてどうにもならないという話を聞いていたんですが、6年経ってこれだけ変わってきたと。途中でいろいろお話を聞くと、今年の夏は暑かったから水がよく売れたとか、それで良くなったとか。また特定の企業が非常に良くて水が売れたとか、そんな話がありました。これも水ものですよ。どうなるかというのははっきりわからない部分がどうしてもあるんだろうと思うんですけど、暑くて水が売れる、売れないというのはそこら辺のところはどうなるかわからないけれども、その辺のところを今後どういう風に見ていくのか。それとコロナ禍の日常ということで、水がどのような形で使われていくのか。それからコロナも含めて企業活動が今後どのような形になっていって、事業をどう予想するのかといったところは、水ものではあるけども、ある程度考え方をしておく必要があるのかなと思いました。その辺のところの考え方についてはどう思われているのか少し聞かせていただければ。

事務局 見込の考え方というところでございます。先ほども少し説明をさせていただきました。大きな考え方ということで、現在考えているのが、これまで予算ベースということで見込んでいましたけど、今回、自然現象とかなかなか読めないものもありますけど、ある程度整理して決算ベースにしていきたいというところで、この決算ベースに変えることによってこれまでなかなか見込がたたなかった不用額、この辺りを整理をすることで、より精度の高い財政見通しがたてるのかなというのが1点。それからコロナの関係で申しますと、昨年度と今年、この2年間でかなり影響が出ていると思っています。データはお示しできませんけれど、いわゆる生活用の水量が増えて、業務・営業用の水量が減っているというのが一般的な傾向だろうと思っている。この昨年今年の傾向は、2年間の特異的な傾向だということで、またそれ以降の見込をたてる上では、コロナ以前の傾向というものを取り入れたいと思っています。コロナの影響は今年までだろうと思っているが、特殊な影響と捉えて、それ以前の傾向をまたしっかりと次年度以降の見込の中で、取り入れていきたい。また、不用額のところを整理したり、決算ベースに変えたところなど、コロナの影響はそうした特殊要因を除いた形で次回以降の見込の中には組み入れていきたいということで、そこはしっかり分けた形で整理していきたいと今考えている。

会 長 よろしいでしょうか。

委 員 コロナ後の日常という部分は、少しそういった形で変わってくる可能性があるところは留意していく必要があるのかなと思います。

会 長 今回前回のシミュレーションの課題として、人口減少の上振れ。あと決

算ベースとの差というところが、主たる理由と考えてよろしいんですね。決算ベースとして10億の差のところが多い。3億のところは、人口減少の上振れというところで差が出てきた、そのトータルだと思うんですけど。それ以外に今ご質問があったコロナであったり、それ以外の要素で上振れ下振れしそうな要素があれば検討しておいていただきたいと思うんですけど、その辺は？

事務局 冒頭で説明させていただきましたが、支出の部分の理由は、いわゆる民間活力の活用ということで、経営コストの縮減が、いわゆる不用額のところ、また、企業債の借入額の考え方などが、組み合わせあって10億の差が出ております。このように不用額を整理することで、半分以上はクリアされるのかなと思っている。それ以外のいわゆる我々の企業努力の部分であるとか、細かな積み上げについても今回の見直しの中で、可能な限り精査をしていきたいという風に考えています。それから委員がおっしゃられたコロナ禍の見込をどうするか、我々も非常に悩んで考えを至らせているところなんです。なかなか結論は見えない、本当にどこまでが特殊要因で今後どうなるんだろうというところは、どうしても確実なものではないと思えますけど、一定の考え方で、そこは次回お示しをしていきたいというところで、その是非については、ご議論いただきたいと考えている。

会長 今日、前期5年間の総括として課題をあげて、差がどれだけ出たかということのご説明をいただいた。先ほど委員も言われましたけど、前回の予測の時から言うと、2019年辺りで収益が厳しくなるということで何かしないといけないんじゃないか、審議会での議論があったと思います。良い方向に結果として出たということで、純利益もそうですし、今日説明を省略されましたけど、大事な指標としての資金残も、40億弱ぐらいできている。他都市と比べるとまだ少ないですけど、経理上の数字としては良い数字、結果的に。この後見直しをしていきましょうっていうのが、今回の審議会の目的ですので、本日はズレた数字の部分の課題を整理していただいて、基本的な考え方をご説明いただいたということになる。今は良い状況ということから今後の予測をしていただいて、それをもう1度、数字の精度も含めて次回ご議論いただく。その数字の内容をふまえて、もう少しこういうことを考えていかないといけないんじゃないかというのがあれば、議論してもらおうことになるかと思っている。今、考え方の部分で、ほかに何かご指摘やご質問あればお願いします。

委員 投資・財政計画なので、今流行りの数値目標というかKPIですね、企業だったら当たり前前に利益水準であるとかを掲げますよね。そういった考えは上下水道事業にはどうなんですかね。企業債残高の説明もありましたけど、目標を出していくとか、そういう風に出した方が市民や議会に対してもわかりやすいんじゃないかなという気がするんですけど。公表できるかどうかはわからないんですけど、その辺の考え方があるのかどうかお聞きしたい。

事務局 経営指標の実績をスライドに出させていただきますけど、財政見通し

をたてる上では、しっかりとどこまでの水準を保っていくか、どこを目指すのかというのは必要だろうと思う。考え方として委員のおっしゃられたところは、考え方を持った上で取り組んでいこうと思う。ただ、KPIという形で公表できるかどうかについては、内部でこれから考えていきたいと思っている。まずは、しっかりとどういう財政見通しをたてるか、たてる上ではそういった指標も意識をしながらやっていきたいという風に今は考えている。よろしくお祈いします。

委員 ありがとうございます。

委員 今回の委員のお話はそうなんだと思います。このページのなぜこうなっているのか。他の類似団体と福山市と比べてこうなったのはなぜか。経営状況は良いわけでしょ？なのに類似団体と比べるとこうなっているという辺りをしっかりとその理由を分析して教えてほしい、次回までに。

それからもう1点、他の委員も言われて私も賛成なのは、財政見通しを作られる考え方として、決算、決算と言われますけど、私は予算を今まで作ってきた者として、決算をベースに財政推計をするのは、危険だと思っている。地方財政制度上、企業会計もそうだと思いますが、予算執行の際に、入札で予算は超えられないという制約があるので、不用額は必ず出るんですよ。あまり決算にこだわって財政計画をたてられるのが本当に良いのかと思う。私自身は疑問がある。

事務局 はい。ありがとうございます。今おっしゃられたところは、各種指標に対して全国、類似団体、中核市ありますけど、福山市との経営状況の比較をしっかりと分析しないと今後の見通しをたてれないよということのご質問だろうと思う。その中身、我々としても中身をしっかりと精査する中で、お示しできるものはしっかりとお示しして参りたいと思っている。それから決算ベース、今回我々も、これまで予算とのかい離ということがあったので、より現実に近いところを何とかできないかなということでも今回、この考え方がどうかと思っている。決算ベースと言いながらも執行率ということで、余力を持たせるということもできるので、実際作る中で、これまでの結果と予測のところを見定めて、その状況を見ながらどれが一番正しいのかそういったものを我々の中でしっかりと議論した上で、また皆様方とご議論できるようなものを提示していきたいと考えている。

会長 目標値みたいなものがないと計画をたてにくいと思うので、ご検討いただく。それから決算ベースでいくと逆に下振れの可能性もってということだと思うんですが、その辺がおこらないような考え方を少し、もう一度検討していただいてお示ししていただきたいというところでお祈いしたい。

他に何か、なければ今日は時間になりましたので、今日の議題についてご意見を伺うということについては終わりにしたいと思う。今日出た意見は反映していただけたところは反映していただきながら、次回以降の資料作りをしていただきたいと思う。よろしくお祈いします。

終了 12:00